

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00954

研究課題名（和文）比較史的考察からみた中世西国の地域権力の特質と外交活動

研究課題名（英文）A comparative study of the diplomatic activities of the Clans in medieval western Japan

研究代表者

伊藤 幸司（ITO, KOJI）

九州大学・比較社会文化研究院・教授

研究者番号：30364128

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：九州の地域権力の「外交」を比較検討すると、大内氏の存在が際立つ。中世後期日本の諸勢力の異国通交における姿勢とその特質の地域的差異は、伝統的な外交慣習や対外観の影響の強弱や、異国との物理的な距離の遠近が大きく影響していた。朝鮮や琉球との異国通交という指標で見れば、大内氏は幕府体制に依存することなく、その域外で活動できたのであり、幕府周辺の有力大名の活動は幕府体制の範疇に留まっていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、中世日本対外関係史の分野、とりわけ地域権力による独自の異国通交が展開した中世後期に焦点を定め、諸勢力の外交活動を個別にあきらかにするのみならず、諸勢力の外交活動同士を俯瞰的に比較検討することで、微視的・巨視的な両面からとらえるという新たな研究視角を提供した。とりわけ、当該期もっとも積極的な異国通交を展開した西国大名については、その特質を探る上で、「外交」活動の有無が大きな指標となり得ることを指摘した。

研究成果の概要（英文）：As a result of comparing the "diplomacy" of the clans in Kyushu, it was found that the Ouchi clan has a distinct advantage. Regional differences in the diplomatic characteristics of the clans in late medieval Japan were largely influenced by their traditional diplomatic practices, the strength and weakness of their perceptions of foreign countries, and their physical distance from foreign countries. Considering the diplomacy with Korea and Ryukyu, the Ouchi clan was able to conduct diplomacy without relying on the Muromachi shogunate system, but the clan's diplomacy in Kyoto was dependent on the Muromachi shogunate system.

研究分野：東アジア交流史

キーワード：外交 比較 大内氏 室町幕府 九州

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、これまで15, 16世紀における西国の地域権力の外交活動について、とくに周防大内氏の外交活動を素材として研究を進めてきた。周防大内氏は、西国を代表する地域権力であり、その外交活動の規模は室町幕府にも比肩するものと推測できる。しかし、大内氏の外交活動のレベルを評価するためには、他の西国の地域権力の展開する外交活動や、室町幕府の外交活動のありようと比較考察しなければ、客観的に位置付けることはできない。

ゆえに、西国の地域権力の外交活動を個別的にはではなく、総合的な視野から考察していく姿勢が求められると考えた。ところが、その目的を達成するためには、その前段階として、大内氏以外の西国の地域権力の外交活動の個別研究の蓄積が不可欠となるため、まずは、外交活動を展開する主要な西国の地域権力の事例について、考察漏れの無いように個別研究を進めた。

上記の作業と並行して、研究代表者は伊藤幸司「中世西国諸氏の系譜認識」(九州史学研究会編『境界のアイデンティティ』岩田書院、2008年12月)や、同「大内氏の外交と大友氏の外交」(鹿毛敏夫編『大内と大友 中世西日本の二大大名』勉誠出版、2013年6月)などにおいて、本研究が目指す比較史的考察を先駆的におこなっている。しかし、いずれも素描の域を出ないものであり、本研究が求めるレベルには到達していない。

一方、研究代表者は、西国の地域権力と、畿内や東国の地域権力との決定的な差違は、外交活動の有無だと考えているが、残念ながら西国の地域権力のありようを考える際、外交活動をも加味した概念は、いまだ既存の研究者から提示されていないことに不満を感じていた。ゆえに、本研究の視角から西国大名の特質を総合的にあきらかにしたいと考えるに至った。

2. 研究の目的

本研究は、15～16世紀における西国の地域権力について、彼らの外交活動への関わり方という独自の指標を導入し、西国の地域権力同士や室町幕府との比較史的考察をおこなうことで、従来とは異なる西国の地域権力の特質を総合的に明示することを目的とする。研究の進展が著しい畿内や東国の地域権力と比較して、西国の地域権力の総合的な特質は明確化されていない。外交活動は、畿内や東国の地域権力にはない、西国の地域権力のみ独自の性といえる。外交活動のありようを加味してこそ、西国の地域権力の総合的な特質がわかるのであり、その成果を従前の畿内や東国の地域権力の特質と比較することで、当該期における地域権力の総合的な把握も可能となる。

3. 研究の方法

本研究は、以下のような過程を経ることで目的を達成する。

1. 慶弔外交の比較史的考察(室町幕府と周防大内氏に代表される西国諸氏との比較)

外交活動において、その特質がもっとも顕著に現れるのは、国家元首の即位や死去に際しておこなわれる慶弔外交の場だと考えている。そのため、ここでは西国の地域権力が朝鮮や琉球に対してどのような慶弔外交をおこなったのかという点に焦点を定めて考察をする。その際、周防大内氏に代表される西国の地域権力相互間の比較のみならず、室町幕府の慶弔外交のありようとも比較することで、西国の地域権力の慶弔外交の特質をあぶり出すことを試みる。

2. 外交全般における西国諸氏の比較史的考察

外交活動全般において、西国の地域権力が中国・朝鮮・琉球・南蛮(東南アジア)との外交に対して、どのようなスタンスで臨み、具体的にどのような活動を展開していたのかという点について、周防大内氏の事例を基軸に、他の地域権力の事例と比較しつつ、西国の地域権力の外交活動のありようの特質をあぶりだす。

3. 室町幕府および幕府周辺大名の外交の特質

室町幕府(室町殿)や幕府周辺で活動する有力大名が、どのような外交活動をおこない、その特徴は何で有るのかを解明し、その成果を九州地域の地域権力の外交の特質と比較検討する。

4. 研究成果

中世後期における九州の地域権力を「外交」(異国との通交貿易)という視角から比較考察した結果、朝鮮と特別な関係を形成しながら、遣明船の経営にも参与し、琉球との通交貿易も展開した大内氏の存在が際立っていることを明示することになった。「外交」は、西国大名を比較する際の重要な指標となり得ることも指摘できた。

室町幕府(室町殿)やその周辺の有力大名が異国と通交する際、どのような通交姿勢をいだし、それにはいかなる特質があったのかということについては、室町幕府(室町殿)やその周辺の有力大名の異国通交は、慶弔外交を例にとっても、九州大名のおこなう異国通交とはかなり違うことが明確となった。とりわけ、朝鮮と琉球とのかかわり方については特徴が際立つ。中世後期日本の諸勢力の異国通交における姿勢とその特質の地域的差異は、伝統的な外交慣習や対外観の影響の強弱や、異国との物理的な距離の遠近が大きく影響していた。また、幕府周辺の有力大名は、例え伝統的対外観に影響されなかったとしても、大内氏のように独自の異国通交をすることは難しく、土岐氏が幕府(室町殿)を通じて朝鮮から大蔵経を獲得したように、幕府(室町殿)に依存する形でしか異国通交を実現できなかった。朝鮮や琉球との異国通交という指標で見れば、大内氏は幕府体制に依存することなく、その埒外で活動できたのであり、幕府周辺の有力大名の活動は幕府体制の範疇に留まっていたといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 46
2. 論文標題 大内氏の菩提寺と東アジア	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 年報中世史研究	6. 最初と最後の頁 31-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 500
2. 論文標題 中世日本最大の国際貿易港	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 西日本文化	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 -
2. 論文標題 肥後相良氏と東アジア	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 稲葉継陽・小川弘和編『中世相良氏の展開と地域社会』戎光祥出版	6. 最初と最後の頁 268-278
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 山川出版社
2. 論文標題 アジアのなかの港市博多	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中世都市研究会編『港津と権力』	6. 最初と最後の頁 29-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 217
2. 論文標題 アジアに雄飛する大内氏	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴博	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 278
2. 論文標題 雪舟と遣明船	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 別冊太陽日本のこころ	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤幸司	4. 巻 1
2. 論文標題 日明外交を支えた被虜人	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州の中世	6. 最初と最後の頁 6-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 外交からみた九州の地域権力
3. 学会等名 七隈史学会第25回大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 伊藤幸司
2. 発表標題 美濃土岐氏の朝鮮通交
3. 学会等名 九州大学韓国研究センター主催シンポジウム「中世の日韓交流と対馬海峡沿岸社会」（招待講演）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 中野等・福田千鶴・伊藤幸司・松尾晋一ほか10名	4. 発行年 2024年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 384
3. 書名 中近世九州・西国史研究	

1. 著者名 森平雅彦・辻野裕紀・波瀾剛・元兼正浩・伊藤幸司ほか11名	4. 発行年 2022年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 244
3. 書名 日韓の交流と共生 多様性の過去・現在・未来	

1. 著者名 伊藤幸司	4. 発行年 2021年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 564
3. 書名 中世の博多とアジア	

1. 著者名 伊藤幸司 (編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 405
3. 書名 室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------